

答申施策の実施状況

～フォローアップ結果～

東北観光基本計画



構 成

◆ 東北地方の観光に関する目標の達成状況

◆ 取り組むべき施策

競争力の高い魅力ある観光地の整備

(答申「第4章」 1)

観光産業の競争力強化と人材の育成

(答申「第4章」 2)

外国人観光客の来訪及び国際相互交流の促進

(答申「第4章」 3)

東北地方への来訪促進のための環境整備

(答申「第4章」 4)

東北地方の観光に関する目標の達成状況

目標	基準値	平成19年	平成20年	平成21年	目標値
東北6県における訪日外国人旅行者数	平成18年 35.3万人	40.2万人	34.6万人	-	平成22年 50万人
東北6県における国際会議の開催件数	平成17年 4件	2件	8件	-	平成23年 5割以上増
東北6県における宿泊者数 ¹	平成18年 3,174万人 (2,884万人 ²)	2,913万人	2,799万人	-	平成22年 3,600万人 (3,276万人 ³)
東北6県における観光旅行消費額 ⁴	平成18年度 2兆円 (1.2兆円)	- (1.2兆円)	- (1.3兆円)	-	平成22年度 2.3兆円
東北6県における外国語対応が可能な「ビジット・ジャパン案内所」設置箇所数	平成19年 32箇所	32箇所	33箇所	33箇所	平成23年 39箇所

1 平成18年は各県観光統計、平成19年以降は国土交通省観光経済課、観光庁「宿泊旅行統計」による。なお、目標値(平成22年)は平成18年までの取得方法に基づき設定されている。

2 山形県及び福島県では、平成19年から「宿泊旅行統計」へ移行し従来の統計手法によるデータ取得ができないため、従来の統計手法で得られた他の4県の平成18年と平成19年を比較し算出した比率を基にした推計値である。

3 平成18年の基準値と2の推計値とを比較し、得られた比率を基にした推計値である。

4 観光旅行消費額について平成19年以降は山形県及び福島県のデータがないため平成18年と比較できない。()内は山形、福島を除く4県分合計。また、各県の算出方法が統一されていないため、参考値である。

競争力の高い魅力ある観光地の整備

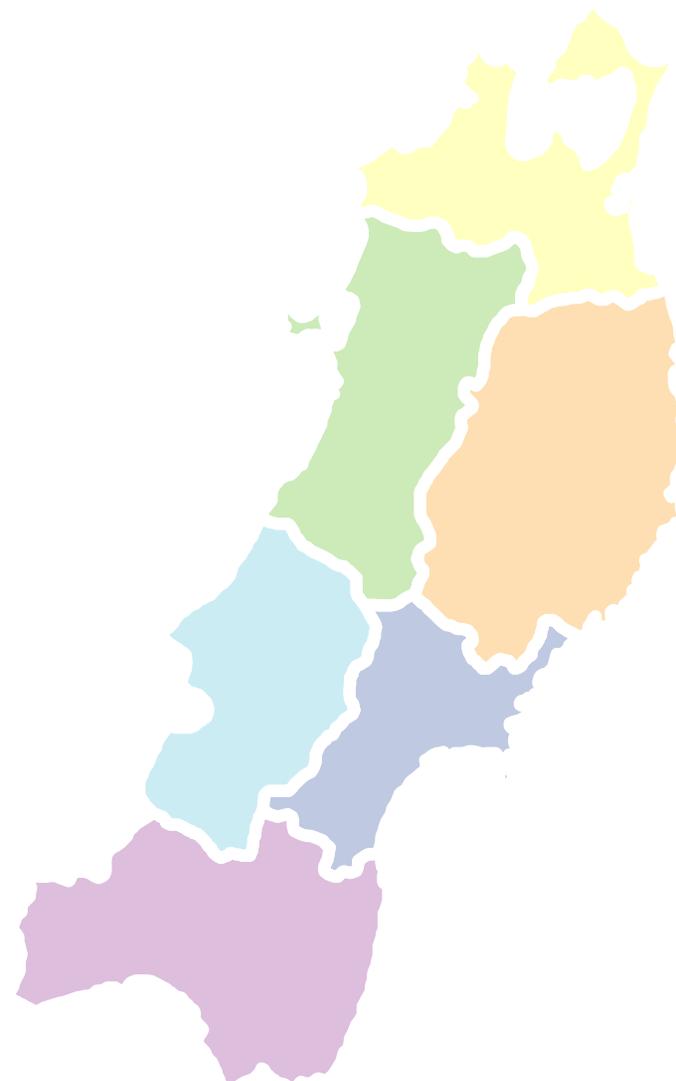
(答申「第4章」 1)

本章に位置づけられた目標

競争力の高い魅力ある観光地の整備

観光資源の活用

交通施設の総合的な整備



(1) 競争力の高い魅力ある観光地の整備

観光地間の連携 ~ 観光圏整備事業 ~

広域的な連携・役割分担による観光地づくりの成功事例を早期に構築するため、国内外からの観光客の2泊3日以上滞留型観光が可能な「観光圏」の形成に向けた地域の関係者の連携による取組を支援。

観光圏整備のイメージ



観光圏整備に対する支援

<p>観光圏整備事業費補助</p> <p>観光圏整備計画に基づいて行う地域の関係者による取組について費用を補助。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助額: 事業費の4割 ・補助期間: 原則2か年 	<p>社会資本整備についての配慮</p> <p>(観光圏整備法第19条)</p> <p>観光圏整備事業の円滑かつ確実な実施が促進されるよう十分に配慮</p>
--	---

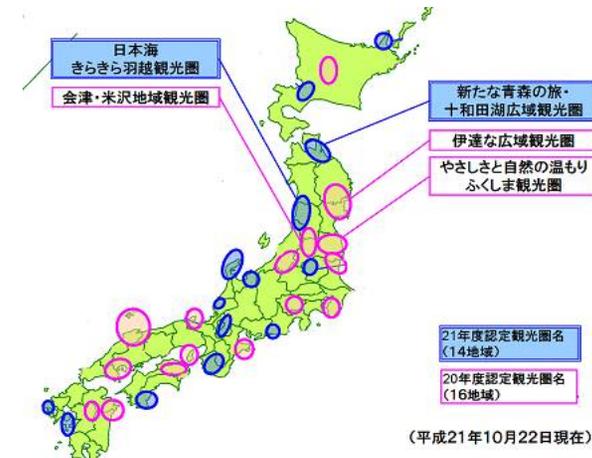
東北における認定観光圏

【20年度認定】

・伊達観光圏 ・ふくしま観光圏 ・会津・米沢観光圏

【21年度認定】

・青森・十和田湖観光圏 ・日本海きらきら羽越観光圏



(1) 競争力の高い魅力ある観光地の整備

観光圏整備事業 伊達な広域観光圏

～ ゆっくり滞在、伊達な時間（とき）を過ごす旅～



伊達な広域観光圏の概要

宮城県：仙台市，気仙沼市，大崎市，登米市
松島町，南三陸町，利府町
岩手県：一関市，奥州市，平泉町
以上2県にまたがる6市4町の全域
藩政時代に仙台藩として一体であった地域

観光圏の数値目標

平成20年度から平成24年度の5ヵ年で
入込数を500万人，宿泊者数を94万人増やします
観光客入込数 4,098.4万人 4,598.4万人
域内宿泊者数 689.9万人 782.6万人

協議会の概要

【名称】伊達な広域観光推進協議会
【構成員】区域内6市4町の
・自治体首長
・商工関係団体長
・観光関係団体長

協議会の組織

宿泊部会 ... 宿泊事業者を中心に，軸となる
観光圏連泊プランを企画実施
作業部会 ... 自治体中心として，地域の取組
をバックアップする



観光圏が目指すブランドイメージ

1. 伊達文化と奥州藤原文化
多様性と深みのある地域
2. 豊富な体験型観光メニュー
飽きずに滞在できる地域
3. 域内を移動しながらの長期滞在
「おくのほそ道」のハイライト



中尊寺新覆堂

特に重要な事業

観光旅客の宿泊に関するサービスの改善及び向上に関する事業

伊達なグルメ料理開発推進事業
各地に名物料理を開発して，旅行商品に組込
相互試食会の開催による料理の知名度向上
伊達な連泊プラン造成事業
宿泊部会を中心に，観光圏旅行プランを作成

観光資源を活用したサービスの開発及び提供に関する事業

ゆっくり滞在プログラム開発事業
体験メニューを組合せた旅行商品づくり
伊達な観光圏スタンプラリー・割引チケット造成事業
より多くの観光資源に触れてもらう仕組みづくり

社会資本整備事業等との主な連携

仙台北部道路整備事業
平泉と松島との間の移動時間が短縮される
登米志津川道路整備事業
時間距離の短縮により，周遊型観光の促進を図る
名取川直轄総合水系環境整備事業（広瀬川）
市街地で鮎釣りができる清流の魅力づくり
子ども農山漁村交流プロジェクト
体験型観光の振興による，交流の拡大を図る

凡例	
仙台市	滞在促進地区の市町
利府町	その他の観光圏の市町
●	滞在促進地区
●	主な観光資源
■	主な乗り・行事
✈	空港
—	新幹線
—	主要幹線道路
—	その他の鉄道(京浜東北線・私鉄線)
—	その他の幹線道路(国道・有料道路)

(1) 競争力の高い魅力ある観光地の整備

観光圏整備事業
やさしさと自然の温もりふくしま観光圏
 ~ここでは、あなたを優しくする風に出逢えます~

観光圏の区域: 福島県 福島市、相馬市、二本松市、伊達市の区域
 観光圏整備計画の期間: 平成20年10月1日 ~ 平成25年3月31日
 数値目標の設定: 観光入込客数(万人) 1,104 (19年度) 1,210 (24年度)
 : 宿泊客数(万人) 198 (19年度) 212 (24年度)

国の支援及び特例内容
 観光圏整備事業費補助
 旅行業法の特例
 認定観光圏案内所
 農山漁村活性化プロジェクト交付金

福島市・相馬市・二本松市・伊達市観光圏協議会

福島市、相馬市、二本松市、伊達市、
 観光協会ほか、宿泊・商工・農林水産業関係者等

やさしさ・・・バリアフリー観光の推進

自然の温もり・・・自然・食等、体験型観光

滞在促進地区の宿泊魅力向上のために

- ・バリアフリーツアーセンター設置事業
- ・誰でものんびり素敵なふれあいプログラム開発事業
- ・福島の「食」バラエティ宿泊パック事業 (海の幸、里の幸、山の幸「食」プラン開発)



主な観光コンテンツの充実のために

- ・ふくしま体験物語事業
 - ・海、里、山、川自然体験
 - ・農業体験
 - ・泊まり歩きプラン
 - ・手工芸物づくり体験
 - ・既存施設のコンテンツ連携



- ・社会資本の整備
 - ・荒川の整備・阿武隈川整備
 - ・国直轄権限代行事業の推進

交通アクセスの向上のために

- ・ふくしま観光圏 二次交通サービス向上事業
- ・レンタカー活用観光事業
- ・高速道路と連携した事業
- ・ETCアクティブドライブチャンス

情報提供の充実のために

- ・バリアフリーツアー情報提供事業
- ・ボランティアコンシェルジュ及び観光案内ボランティア事業

(1) 競争力の高い魅力ある観光地の整備

観光圏整備事業
会津・米沢地域観光圏

変わらぬぬくもり、変わる楽しみ ~ 会津・米沢 千の旅回廊 ~

観光圏の区域：[福島県]会津若松市、喜多方市、下郷町、南会津町、西会津町、北塩原村、磐梯町、猪苗代町 [山形県] 米沢市の区域
 観光圏整備計画の期間：平成20年10月1日～平成25年3月31日
 数値目標の設定：観光入込客数(万人) 1,829(19年度) 1,926(24年度)
 宿泊客数(万人) 281(19年度) 304(24年度)

国の支援及び特例内容
 ・観光圏整備事業費補助
 ・旅行業法特例

会津・米沢地域観光圏整備
推進協議会

各市町村、観光協会、宿泊業者、商工業者、交通事業者、農業関係者、国際交流団体等

主な宿泊魅力の向上事業

- ・東山・芦ノ牧温泉地区の魅力向上事業
温泉を核として滞在促進地区全体の魅力を高めるとともに、地元温泉街ならではの雰囲気作り
- ・会津・米沢地域観光圏魅力向上のための事業
2泊以上の連泊プランを実施する宿泊施設について観光圏HP等にて情報発信を行う
- ・北塩原村「ライ」がら事業
早朝の幻想的な風景を発信し、宿泊することで体感できる仕組みを構築する

主な交通移動の便利向上事業

- ・県境を越えた広域連携レトロバス調査事業(会津若松～米沢間)
NHK大河ドラマ「天地人」放映に合わせ、山形県米沢市から会津への送客を図るとともに二次交通の利便性について調査
- ・二次交通充実促進事業
季節を堪能出来る「お座敷・トコロ」展望列車が走る会津鉄道と既存観光周遊バスの接続調整および割引共通利用券の設定。また、乗り場や接続交通等を案内する看板の設置や情報提供活動を行う
- ・圏域拡大による高速自動車道の利活用
主要幹線である東北・上越自動車道から磐越自動車道へのアクセスが増え、圏域内における利活用が期待できる



主な観光コンテンツ充実事業
 ・小野川温泉魅力向上事業
「はたる」の飛び交う自然豊かな環境を向上させながら、温泉地のまち歩きの魅力を発信する

・『西会津味噌ラーメンマスターへの道』事業
会津野沢宿「味噌ラーメン会」と喜多方市協力店をめぐるスタンプカードを作成し、相互に送客を図る

・着地型ニューツーリズム旅行商品の開発事業
観光圏域内における着地型旅行商品を企画実施し、誘客を図る

主な観光案内・観光情報の提供事業

- ・仏都周遊マップ作成事業
会津仏教文化発祥(806)の地と寺社仏閣を新たな観光の切り口として観光圏域内を2泊以上させる
- ・磐梯山周辺ベットネット情報提供事業
磐梯山周辺(3町村)が連携し、ベットとともに出入り可能な宿泊・飲食・体験施設の情報発信
- ・大内宿観光案内所による情報提供事業
年間約100万の観光客の大半は日帰客であるため、突然の宿泊要望客に対し、宿泊情報および圏域情報を発信

社会資本整備事業等との連携

- ・会津地域高規格道路の整備
- ・国道121号の整備促進(喜多方～米沢間の大峠)
- ・国道289号および国道49号の整備促進

(1) 競争力の高い魅力ある観光地の整備

観光圏整備事業

新たな青森の旅・十和田湖広域観光圏

地域の自然と生活を体感させる ～環境と共生した広域観光圏づくり～

観光圏の区域: 青森県青森市、八戸市、十和田市、三沢市、七戸町、六戸町、東北町、おいらせ町
 観光圏整備計画の期間: 平成21年4月1日～平成26年3月31日
 数値目標の設定: 観光客入込数1,931万人(19年) 2,046万人(25年)
 宿泊者数: 204万人(19年) 234万人(25年)

新たな青森の旅・十和田湖広域観光協議会

青森市、八戸市、十和田市、三沢市、七戸町、六戸町、東北町、おいらせ町、各観光協会、商工会、農協、漁協、民間企業等

国の支援及び特例内容
 ・観光圏整備事業費補助

宿泊に関する
サービス改善事業

「新たな青森流湯治体験」
 滞在化事業
 「食文化堪能」
 泊食地域連携事業
 ・滞在型プラン「3日湯治」
 ・「八戸あさぐるブラッシュアップ」



その他の事業

資源と共生する
 「新たな青森 観光ルール」
 構築事業
 地域資源活用研究事業
 ・北里研究所病院と
 の共同研究事業
 など
 八甲田山



社会資本整備事業との連携

一般国道4号、45号の整備促進
 東北縦貫自動車道八戸線の整備促進
 八戸・久慈自動車道の整備促進
 青森港・八戸港整備事業
 馬淵川の総合的な治水対策事業
 三沢空港の安全確保・利便性向上



観光資源を活用した
サービス開発事業

「生活・環境体験プログラム」
 開発事業
 「生活環境体験」
 伝導人材育成事業
 ・新南部馬を活用したルート開発事業



移動の利便性向上事業

二次交通利便性・
 快適性向上事業
 ・「まちなか観光ルートバス」
 「八甲田巡回バス」など



観光に関する
情報提供の充実事業

地域情報発信事業
 大都市圏特定マーケット交流
 “縁づくり”事業



(1) 競争力の高い魅力ある観光地の整備

観光圏整備事業 日本海きらきら羽越観光圏 ～ 日本海、山の神々、舟運、食を通じたおもてなし～

観光圏の区域：秋田県にかほ市、山形県鶴岡市・酒田市・戸沢村・三川町・庄内町・遊佐町、新潟県村上市、関川村、粟島浦村
 観光圏整備計画の期間：平成21年4月1日～平成26年3月31日
 数値目標の設定：観光入込み数 1,765万人(19年度) 2,030万人(25年度) 年平均3%増
 宿泊者数 176万人(19年度) 187万人(25年度) 年平均1%増

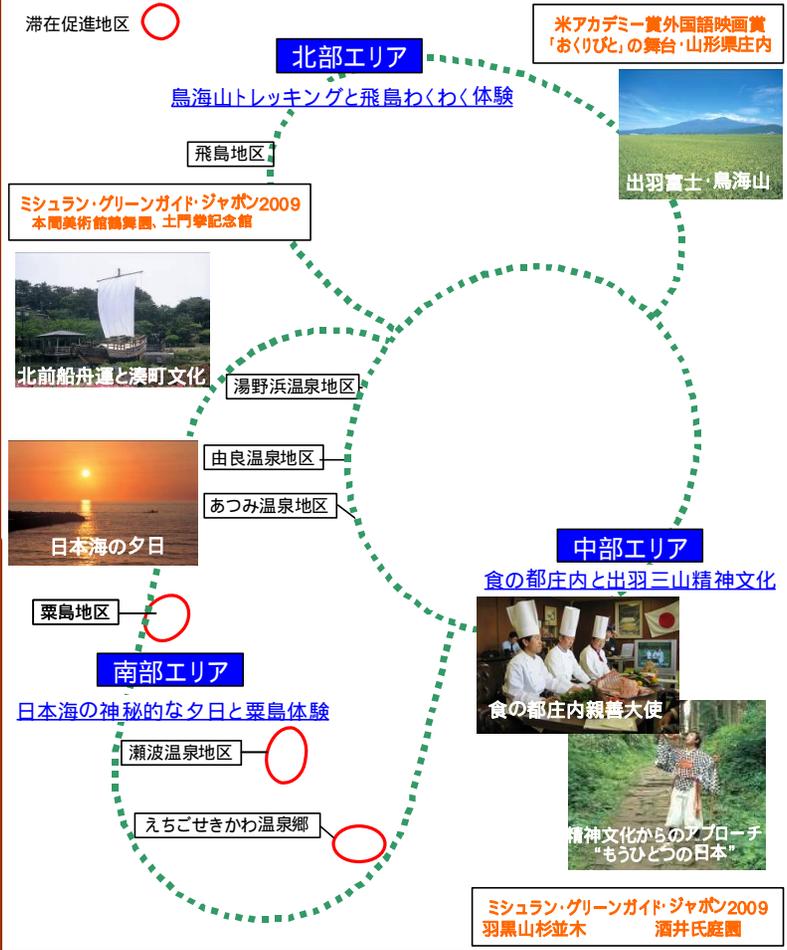
国の支援及び特例内容
 ・観光圏整備事業費補助
 ・旅行業法特例

日本海きらきら羽越観光圏推進協議会
 にかほ市・鶴岡市・酒田市・戸沢村・三川町・庄内町・遊佐町・村上市・関川村・粟島浦村・観光団体・交通事業者・民間事業者・NPO法人・農協・漁協等

主な宿泊魅力の向上事業
 "お宿の旅のコンシェルジュ"による着地型旅行商品の販売
 広域観光ルートと滞在促進地区の組み合わせによる連泊商品の造成
 湯野浜・湯田川・由良・あつみ・瀬波の五温泉連泊者へのプレゼント企画



主な観光コンテンツ充実事業
 圏域共有資源で織り成す広域観光ルートの設定（奥の細道北限の旅、出羽三山山岳信仰の旅など7本）
 "今だけ・此処だけ"の体験プログラムの開発と着地型旅行商品化
 連泊者限定特典を満載した2泊3日の観光圏共通パスポートの発行



主な交通移動の利便性向上事業
 レトロバス等による二次交通実証実験
 街なか循環シャトルバスの運行改善
 湯野浜町上ルネッサンス号

主な観光案内・観光情報の提供事業
 "街の旅のコンシェルジュ"による広域観光情報の案内
 統一ロゴ・デザインを活用した一体的・効率的な観光情報の発信
 IT活用による複数言語の情報発信

主な農山漁村交流促進事業
 グリーン・ツーリズムと田舎暮らし体験
 わくわく飛島体験
 縄文の不思議アイランド
 フルーツ収穫体験

その他、社会資本整備事業等との連携
 観光宣伝と2泊3日のモニターツアー
 戦略的事業展開のための各種調査
 日本海沿岸東北自動車道の整備

(1) 競争力の高い魅力ある観光地の整備

観光圏整備事業 取り組み実施状況 伊達な広域観光圏、ふくしま観光圏

【伊達な時間を過ごす、ゆっくり滞在プログラム事業】

事業概要: 観光圏全体としてのパンフレットを作成し旅行会社へ商品造成を働きかける
 ・二次交通(各宿泊施設の足と公共交通機関)を中心とした圏域内の高速・一般交通網の紹介
 ・各宿泊施設の冬らしい季節感のある宿泊プランや各地域の体験プログラムの紹介

実施目的: 個人・小グループ・ファミリー客、団塊の世代や教育旅行客の長期滞在促進
 滞在型の飽きさせない旅行商品をモデル造成、観光客の満足度を検証する実証実験の実施

主要項目: 健康や癒し / 農村、漁村、島暮らし / 地場産業・伝統工芸・伝統芸能体験 / 伊達文化、藤原文化を学ぶ(一般向け、シニアサマーカレッジ、地域アカデミー等) / 自然鑑賞 / スローライフ、スローフード / People to People 学生アンバサダープログラム(アメリカの学生誘致)の誘致



【ふくしま観光圏 認定観光圏案内所の設置】

認定観光圏案内所: 観光圏全体にかかわる観光案内
 体験案内デスク
 圏域内情報の受発信

設置時期: 2009年7月24日
 (福島市観光案内所内リニューアルオープン)



(1) 競争力の高い魅力ある観光地の整備

観光圏整備事業

取り組み実施状況 会津・米沢地域観光圏、新たな青森の旅・十和田湖広域観光圏

【会津 米沢・愛の温泉 夢の連泊レインボープラン】

- 目的:** 両地域の交流促進による、特にオフシーズンの観光客入込数と連泊者数の増加
- 事業概要:** 国道121号線(大峠道)の利便性、両地域の近さを県内外にPR
新しい観光ルートを開発し、それぞれの地域のみを訪れていた観光客の交流促進を図る
- 企画内容:** 観光圏内滞在促進地区が連携し、2つの温泉宿を転泊で2泊目が半額となる連泊プランの商品造成。
(芦ノ牧温泉、東山温泉、西会津町温泉、熱塩温泉、日中温泉、中ノ沢温泉、白布温泉、小野川温泉、湯野上温泉)



【八戸あさぐるブラッシュアップ事業】

- 実施目的:** 近年観光客にも認知され始めた「八戸の朝市」という既存の観光資源と新たな観光資源である「早朝銭湯」の連携、八戸市及び周辺の「宿泊+食」のブランド化
- ビジネスの宿泊客が8割
八戸は朝が早く朝市が盛ん
温泉旅館は無いが「銭湯」が多い
- } 八戸の「強み」を生かす
- 宿泊先のホテルからタクシーで朝市・銭湯を堪能し、次の目的地・ホテルへ
- 実施概要:** 朝市、銭湯以外の八戸に眠る朝の観光コンテンツの掘り起こし
既存のあさぐる事業と連動させたコース企画とモニターツアーの実施
あさぐる事業を広くPRするためのチラシやパンフレット作成



(1) 競争力の高い魅力ある観光地の整備

観光圏整備事業 取り組み実施状況 日本海きらきら羽越観光圏

【庄内レトロバスの運行】

実施時期：平成21年7月～12月中旬

運行ルート：鶴岡駅～致道博物館～松ヶ岡開墾場～庄内映画村オープンセット

運行台数：レトロバス1台

実施目的：観光資源を有機的につなぐ二次交通の整備
商業ベースに乗せるための運行形態、時刻設定、
ルート、運賃、運行回数などの検証・分析
城下町にふさわしいレトロバスの走る観光地として、
観光需要の喚起を図るとともに、観光圏の広告塔として運行



(2) 観光資源の活用

観光資源の活用

地方の元気再生事業

「東北芸術工科大学との連携による地域と観光産業の活性化プロジェクト」

実施概要

実施主体：肘折温泉地域協議会
 企画：肘折温泉プロジェクト実行委員会、東北芸術工科大学総合研究センター
 実施時期：2009年6月～2010年3月
 実施内容：「東北芸術工科大学との連携による地域と観光産業の活性化プロジェクト」として温泉アートプロジェクトを開催
 6人のアーティストを招待し、温泉文化に触発された作品を制作、温泉街各地に展示等モニターツアー「選べる体験プラン付 肘折温泉ちょこっと湯治の旅」

内容

- アーティストによるワークショップ
- ・「ひじおり染め」（草木染め）
 - ・「紙漉きアートワーク」（葉書や紙のオブジェ作成）
 - ・「肘折山水を描く」（肘折をトレッキングし山水画を描く）
 - ・「舞踏ワークショップ」
- モニターツアー（JTB東北）
- ・11月1日～、2月6日～（2泊3日）
 - ・仙台圏を中心に募集・実施、2回で28名の参加

アート、自然、歴史、温泉に関する「体験型メニュー」の充実
 新しい湯治スタイルとなる要素の確立



▲アーティスト作品



街歩きと棚田ツアー

実施概要

実施主体：大蔵村ガイド協議会
 実施時期：2009年6月～9月（日曜日のみ）
 温泉街まち歩きガイド 7回
 四ヶ村棚田-ブナ林めぐり 9回 実施
 モニターツアー：2回開催
 （森のツーリズムモニターツアー 最上地域観光協議会、JR東日本主催）



（出典）肘折温泉ホームページ、山形県ホームページ

(3) 交通施設の総合的な整備

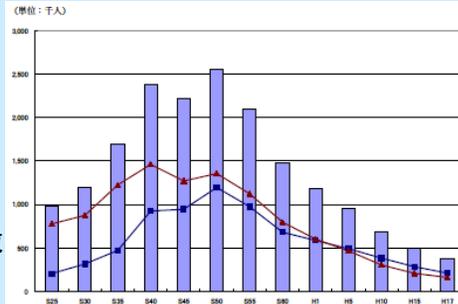
無料レンタサイクルの実施

背景・経緯

利用者数の減少に対して様々な対応策の実施

2006年 津軽鉄道サポーターズクラブ創設
レールオーナー制度導入

2009年 トレインアテンダント設置
駅舎を利用したカフェ、店舗等の開設
無料レンタサイクルの実施



駅名	レンタル時間	貸出数
津軽五所川原駅	9:00~17:00の間 4台	4台
金木駅	9:00~17:00の間 4台	4台
芦野公園駅 【駅舎】	10:00~16:00の間 4台(実体日本製 無G)	4台
津軽中里駅	11:00~17:00の間 3台	3台

実施概要

【青森県】

実施時期：平成21年6月16日～11月下旬

実施駅：津軽五所川原駅、金木駅、芦野公園駅
(喫茶店「駅舎」)、津軽中里駅

その他：各駅での観光MAP作成



(出典) 津軽鉄道ホームページ

(3) 交通施設の総合的な整備

庄内レトロバスの運行

実施概要

実施時期：平成21年7月～12月中旬
 運行ルート：鶴岡駅～致道博物館～松ヶ岡開墾場～庄内映画村オープンセット
 運行台数：レトロバス1台
 実施目的：観光資源を有機的につなぐ二次交通の整備
 商業ベースに乗せるための運行形態、時刻設定、
 ルート、運賃、運行回数などの検証・分析
 城下町にふさわしいレトロバスの走る観光地として、
 観光需要の喚起を図るとともに、観光圏の広告塔として運行

内容

運行日：平成21年7月～12月中旬の土日祝
 本数：4往復/日
 運賃：1日乗車券 1,000円
 セットプラン：3,500円
 庄内映画村オープンセット、庄内映画村資料館（松ヶ岡）
 の入場料金+バス運賃



夏休み期間特別企画の実施



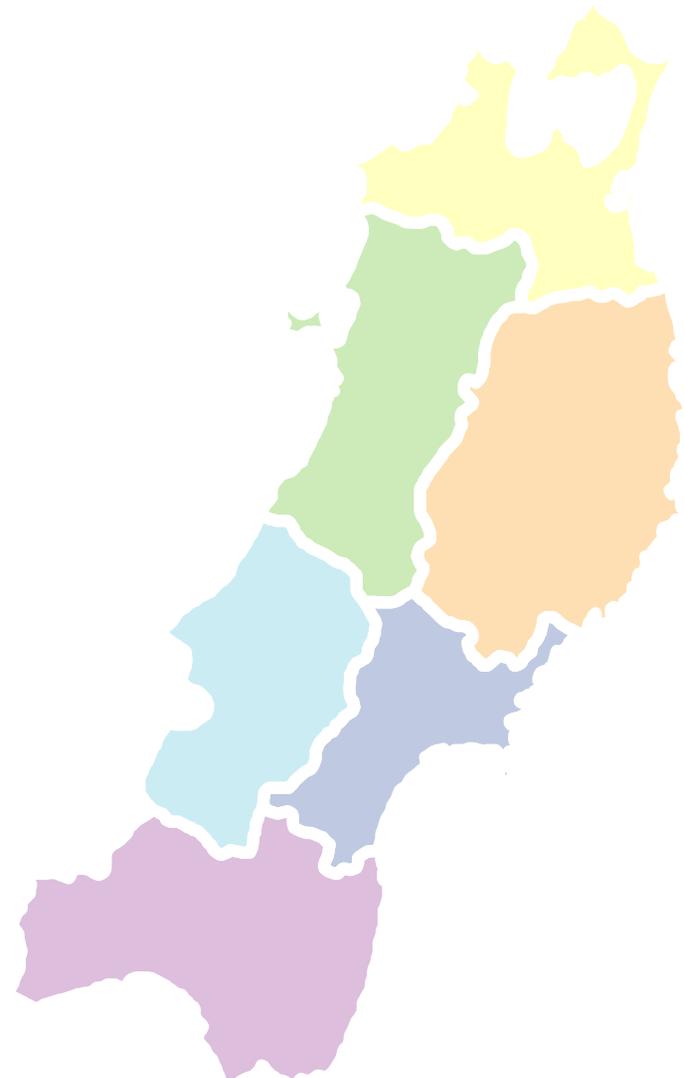
(出典) 東北運輸局資料
 庄内交通ホームページ
 鶴岡 庄内レトロ散歩道

観光産業の競争力強化と人材の育成

(答申「第4章」 2)

本章に位置づけられた目標

観光産業の競争力強化
人材の育成



(1) 観光産業の競争力強化

「地域観光マーケティング促進セミナー」

背景

- ・国内旅行需要の変化に伴い、各地域の固有の魅力を反映させた、より創意工夫豊かな企画旅行商品の開発が必要
- ・各旅行業者は発地からの送客を中心とした取り組みから、着地の地域との「連携」「協働」による地域観光振興を基軸とした取り組みへシフトする傾向



地域観光マーケティング促進セミナー（2箇所）開催
重点支援地区を募集

実施概要

実施主体：東北運輸局、東北地方整備局
 実施日：仙台 2009年12月10日
 酒田 12月11日
 参加者：自治体・観光関係団体・NPO等



事業の展開

地方運輸局・地方整備局による「地域観光マーケティング促進セミナー」の開催
 「地域観光マーケティング促進マニュアル」及び「地域観光マーケティング戦略シート」の配布と解説
 旅行業界の着眼点、担当窓口、商品造成サイクル等に関する情報の提供

地域の観光まちづくり推進母体による「地域観光マーケティング戦略シート」の作成・提出

「観光まちづくりアドバイザー会議」による「地域観光マーケティング戦略シート」の評価、
 情報の収集・整理

地域に対する各種事業の実施
 地域の要請等に応じて適宜、アドバイザー会議によるアドバイスの実施
 地域の情報（商品化に向けたアイデアや担当窓口に関する情報、推進主体のHPへのリンク等）の、国土交通省のホームページへの掲載
 各地域と旅行会社との商談会の開催
 観光ルネサンス事業等、国の支援策との連携

アドバイザー会議の審査を経て選定された、1～3地域に対する集中的なコンサルティングの実施
 アドバイザー会議による集中的なコンサルティング（＝観光まちづくりコンサルティング事業）の実施
 旅行会社の協力を得て、旅行商品化と誘客活動の実施

各地域における取り組み

企画旅行商品としての流通

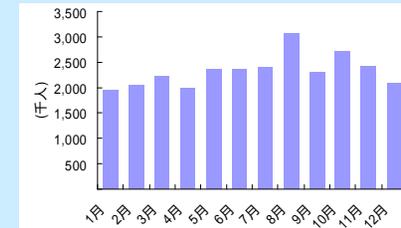


(1) 観光産業の競争力強化

冬季における観光客の誘致 ～ 蔵王「樹氷」～

背景・経緯

- ・冬季における観光客誘致の必要性
 - ・台湾、香港等温暖なアジア地域の「雪」への憧れ等、「東北の冬」を活用したPRが可能
- 2008 プログラムチャーター便によるツアー開始
 2009 蔵王の「樹氷」をテーマにプログラムチャーター便によるツアー実施



東北における月別宿泊者数 (出典) 宿泊旅行統計 (平成20年)

実施概要

- 実施主体：山形県国際観光推進協議会
 実施時期：平成22年1月21日より2月22日
 ツア-概要：航空会社2社、台湾旅行会社5社、就航便数17便による開催
 山形県による支援
- ・山形県国際観光推進協議会を通じた広告支援
 - ・着陸料の1/2減免 (山形県空港管理条例附則第2項適用)
 - ・チャーター便到着時における空港での歓迎行事 等

内容

- 蔵王樹氷鑑賞等を含むツアー
- ・5社のうち4社が4泊5日 (うち山形県3泊) の日程
 - ・山形県および東北を観光 (蔵王樹氷、銀山、最上川舟下り、宮城蔵王雪上車、仙台 等)
- 初便における受入歓迎行事、最終便におけるお見送りセレモニーの実施

来訪観光客数

- ・ツアーを企画した旅行社、就航便数、来訪者数が増加

	H20	H21
企画旅行社	1社	5社
就航便数	9便	17便
観光客数	1,453人	2,503人



お見送りセレモニー



蔵王樹氷まつり



(出典) 山形市観光協会ホームページ

(2) 人材の育成

観光カリスマ塾

観光カリスマ塾

1. 趣旨

従来型の個性のない観光地が低迷する中、各観光地の魅力を高めるためには、観光振興を成功に導いた人々のたくいまれな努力に学ぶことが効果的。各地で観光地域振興にがんばる人を育てていくため、その先達となる人々を「観光カリスマ」として選定。

2. 選定

第8回選定委員会平成17年2月23日までに100名選定

3. 地域への期待

地域のオリジナリティ育成のためには、観光カリスマの活動を形だけ模倣するのではなく、「考え方」を理解することが重要
観光カリスマのノウハウを上手く活用し、人真似ではない、個性的な観光地づくりが進められていくことを期待

観光カリスマ塾とは

目的

観光カリスマ塾は、地域のリーダーとして観光地づくりに成功した観光カリスマから、その取組みのプロセスを観光カリスマの現地で直接講義を受け、意見交換をすることにより、次代の観光まちづくりのリーダーを育成することを目的とする。

概要

観光カリスマを講師として、観光カリスマの現地において、20名程度の受講生を対象に、講師となる観光カリスマ自身が策定するカリキュラムを基に、講義・現地視察等を1泊2日(または2泊3日)のセミナー形式で開催する。

受講資格

自治体関係者、観光関連業界の方、学生の方など、地域の特色を活かした観光振興や地域の活性化、魅力のあるまちづくりに熱意のある者

平成21年度開催概要

「観光カリスマ塾」は、全国8か所の会場で開催
東北では福島県いわき市 常磐興産(株) 斎藤 一彦氏を塾長として
平成21年11月30日(月)～12月1日(火)、1泊2日で開催
テーマ : 「炭鉱」から「観光」へ

カリキュラムの内容

- ・観光カリスマの取組活動などの講義
- ・観光カリスマによる現地視察・現場体験
- ・受講生によるグループミーティング・地元の関係者との意見交換会など、観光カリスマと地域が取り組んできたことを「体験」できる構成



観光による
地域再生のカリスマ
斎藤 一彦氏



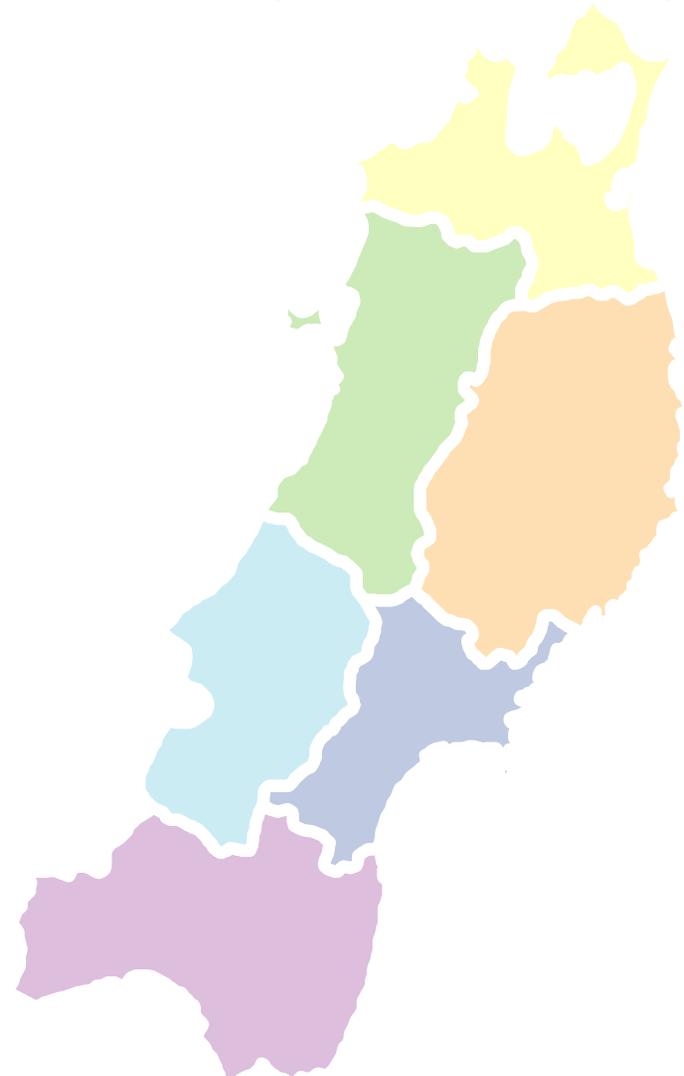
スパリゾートハワイアンズ

外国人観光客の来訪 及び国際相互交流の促進

(答申「第4章」 3)

本章に位置づけられた目標

外国人観光客の来訪促進
国際相互交流の促進



(1) 外国人観光客の来訪促進

海外からの「東北ツアー」の造成に向けた取組の促進

東北6県・新潟県の官民が一体となって、海外の重点市場（韓・台・米・中・香・タイ・シンガポール・仏）から旅行エージェントのキーパーソン39名を招請。東北視察ツアー、交流商談会等を実施し、「東北の冬」をテーマに東北の美しい風景や旬の食、温泉、雪遊び、祭りなど、東北の魅力を重点市場に対し強力に情報発信し、旅行商品造成を促進する。

〔事業概要〕

日 程 交流商談会・懇親会等 9月7日(月) 宮城県仙台市
 東北視察ツアー 2009年9月8日(火)～9月12日(土)
 参加者数 【海外からの招請者】 39名
 事業費 2,600万円 (うちVJC負担額1,300万円)
 主 催 東北運輸局・東北観光推進機構



岩手県 安比高原スキー場

視察コース図凡例
 北東北3県周遊
 南東北3県・新潟県周遊
 東北・函館縦貫



東北視察ツアー

各重点市場の旅行エージェントが、東北各地を周遊し、東北の冬をテーマに美しい風景、温泉、食などの観光資源を体感。
 3コース(右図)



秋田県 乳頭温泉

交流商談会

東北の観光関係者等と海外旅行エージェントによる具体的な商談を実施



交流商談会

- 海外重点市場毎の趣向に合わせた観光資源の紹介と東北の知名度向上
- インバウンド商品の造成

東北を訪れる外国人観光客の飛躍的拡大を図る

(1) 外国人観光客の来訪促進

外国人観光客が旅行しやすい環境づくり ～多言語化調査～

外国人観光客受入れ体制整備のための案内表示等の多言語化調査について

(目的) 観光立国の実現に向け、観光客の移動円滑化を図ることが必要。交通機関及び観光地における案内表示等については、主なターミナル等を除き英語表記のみとなっている状況であることから、その多言語化の必要性について検証を行うとともに『多言語化情報提供モデル』の確立に資するため実証実験を実施。

実施地域

一関・平泉地区

「平泉世界遺産登録受入体制整備促進協議会」を設立

構成メンバー：岩手県、一関市、平泉町、JR東日本、岩手県交通
一関観光協会、平泉観光協会、東山町観光協会等

検討内容

標準的な表示内容(全ての言語対象)

- ・ 標準的な案内表示用語の訳文のあり方。
- ・ 文字の大きさ、言語の配置や順番等のデザイン。
- ・ 外国人に正しく伝えることができる多言語表示。
- ・ 公共交通機関の切符売り場等における必要最小限の情報。

案内表示の多言語が必要な範囲(対象言語:英語に加え簡体字、繁体字、韓国語)
・何が必要で、何は不要か。

・歴史、文化的施設、フォトスポット等の表示方法。

戦略的な情報提供のあり方

・日英表記のみの案内看板と中韓表記のパンフレットやマップとの組み合わせ。

・言語に頼らない表示方法の工夫。

・色の工夫または統一。

日本語漢字表記のみで足りるものの整理

主な変更内容

案内表示のリニューアル 4カ国語表記 トイレの案内表記

対象地域における実地調査

- ・ 現時点における整備状況を外国人の視点で現地点検。
- ・ 点検結果を踏まえ、必要に応じ案内表示の改善・充実。そのうえでモニタリング調査を実施し事業効果を測定。
- ・ 報告書を作成。

(参考)外国人一人歩き点検隊による改善事例

青森空港

【指摘内容】
国際線到着ロビーから、トイレの位置が分りにくい。遠くからでも分かりやすい案内表示にすべき。

【改善内容】
案内表示をピクトグラムに加え4カ国語にて表記。



観光庁においては、当運輸局も含め各地方運輸局の調査結果を踏まえ、統一的なガイドラインの作成を目指す。

(1) 外国人観光客の来訪促進

MICE促進フォーラム

MICE概要

M (Meeting) : 企業等のミーティング、セミナー等
 I (Incentive/Travel) : 企業報奨・研修旅行(従業員の表彰や研修などの目的で実施)
 C (Convention) : 国際団体、学会、協会が主催する総会、学会会議等
 E (Event / Exhibition) : 文化・スポーツイベント、展示会・見本市

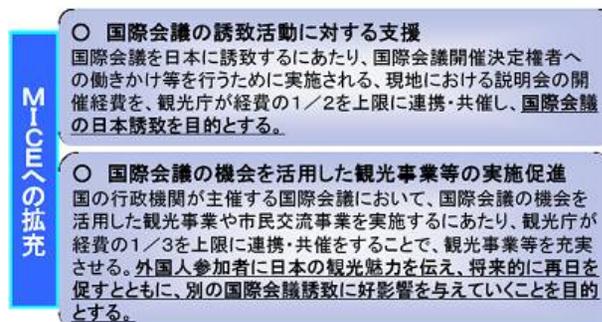
経済効果を生み出し、地域の活性化に大きく貢献。また、海外からの参加者も多く、国際観光の振興にもつながる

MICEの振興のためには官民一体による推進が必要

2009年7月 MICE推進アクションプラン策定(観光庁)

実施概要

実施主体：仙台観光コンベンション協会・東北観光推進機構
 実施日：2009年10月14日
 参加者：MICE関係者120名
 内容：MICE推進アクションプランについて
 先進他都市の事例を含むMICEへの取り組みについて
 韓国インセンティブ旅行市場の現況と東北における誘致・参入について



(1) 外国人観光客の来訪促進

英語対応ナビゲーション付レンタカーの導入

背景

- ・外国人観光客の旅行手段の多様化、個人化が進展
- ・韓国からはリピーターの個人旅行が中心だが、都市部への来訪が多い
- ・台湾等でも今後団体旅行から個人旅行への転換が予想される
- ・北海道での先行事例（「ドラ旅」等レンタカーを活用した旅行プランを実施）



レンタカー利用環境整備として試乗体験の実施、
英語対応カーナビ導入

実施概要

- 試乗体験：平成21年6月 シンガポールの新聞記者ら4人による旅行体験
(宮城、岩手、山形各県)
- 実施地域：仙台市（トヨタレンタリース宮城）
- 導入実績：乗用車・ワゴン車約1,280台のうちこれまでに100台に導入
2011年までに全車両に導入予定

【仕様】

- 地図が一部英語表記可能
- 音声案内も英語

【現況】

- ・外国人客の利用は月平均で数件程度
- ・拡大を見込み、ナビで目的地を検索できる位置情報コードを掲載した観光ガイドを作成予定
- ・香港等も視野に、レンタカーの利用促進の在り方を検討予定



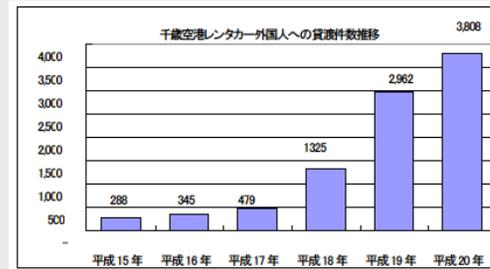
北海道での傾向と課題

【現況】

- ・平成18年度以降、北海道来訪外国人のレンタカー利用が急増

【課題】

- ・レンタカー貸出の手続きや給油のしくみ、交通ルールが異なるため敬遠する旅行者も見られる
- ・レンタカーを利用する外国人による事故が多発、安全性の確保が課題
- ・(セルフのガソリンスタンドで軽油を入れた事故、一時停止不停止での衝突事故、駐車場内での後方確認不足による接触事故等)



5ヶ国語対応カーナビゲーション



(出典) 河北新報 2009年10月10日(土)記事
北海道における外国人ドライブ観光推進方策検討調査

(2) 国際相互交流の促進

姉妹都市との交流促進事業

仙台市

実施概要

姉妹都市：光州広域市（韓国）
 訪問期間：2009年10月23～24日
 2009 光州キムチ文化まつり
 交流内容：明成高等学校調理科の生徒が参加、各国の料理紹介（試食）コーナーで仙台味噌の味噌汁とずんだパフェを紹介



△キムチ文化まつり



△日本食ブース



△現地での交流

久慈市（岩手県）

実施概要

姉妹都市：クライペダ市（リトアニア共和国）
 提携20周年記念事業
 訪問期間：2009年7月30日～8月3日
 クライペダ市で「The Tall Ship Race Baltic 2009」開催（30万人/日来訪）
 交流内容：鏡開き、日舞・茶道・書道・華道の実演、物販ブース・文化紹介ブース開設



△「日本プログラム」の実施



秋田市

実施概要

友好都市：蘭州市（中国）
 実施機関：2009年10月29日～11月12日
 交流内容：蘭州市から講師を招聘、市民講座を開催
 蘭州牛肉麺の講師による講習会、計7回、約120人受講



（出典）光州広域市ホームページ、
 仙台NOW!2009年12月号
 久慈市ホームページ、秋田市ホームページ

東北地方への来訪促進のための環境整備

(答申「第4章」 4)

本章に位置づけられた目標

- 観光地における環境及び良好な景観の保全
- 観光旅行者の利便の増進
- 新たな観光旅行の分野の開拓
- 接遇の向上等
- その他(観光旅行の安全、観光統計)



(1) 観光地における環境及び良好な景観の保全

地域いきいき観光まちづくり

地域づくりのノウハウ

保存のための「住民憲章」や茅葺き技術の伝承、修景の進展

住民意識と制度の変化

【課題】重要伝統的建造物群保存地区に選定される以前は、茅葺きからトタン屋根にする家もあり、歴史的な景観を保全するという意識も少なかった

【解決策】重要伝統的建造物群保存地区選定を契機として、景観や文化財の保護を目的とした「大内宿保存会」を結成。

「大内宿を守る住民憲章」をつくり、「売らない、貸さない、壊さない」の3原則を住民に呼びかけ

技術の継承

【課題】茅葺き職人の高齢化や後継者不足による技術継承が難しくなりつつあった

【解決策】大内宿に伝わる「結い」というくらしの知恵の活用と、茅葺きの技術を地域で守り継いでいくため「大内宿結いの会」を結成
大内宿の保存事業

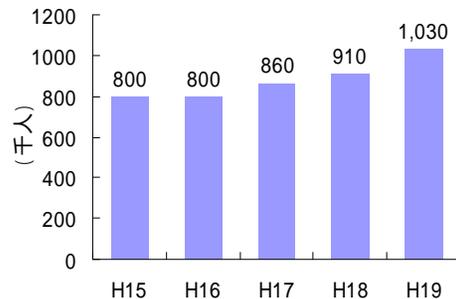
【課題】保全・修景を進めるためのルール不足

【解決策】手続きプロセスを設定し、景観の保全と茅葺き屋根の修理・修景の取りまとめを実施

屋根の茅葺き希望者による事前申請、保存会で審査

下郷町教育委員会の許可を得てから茅葺き作業に着手

 年間100万人の来訪者



▲大内宿への観光入込客数



▲結いによる茅葺き屋根の葺き替え
茅葺き屋根が並ぶ大内宿>



(2) 観光旅行者の利便の増進

観光情報提供サイトの構築

目的

【青森県】

- ・2010年12月の東北新幹線全線開業に向けた、県の魅力の情報発信の拡大
- ・観光情報データベースの各種団体の共有・編集による即時かつ信頼性のある情報の提供

【福島県】

- ・よりわかりやすい情報の提供
- ・着地型観光専用ページによる地域における詳細な観光情報の提供
- ・自由投稿ページ、ブログページ掲載による多方面からの情報発信

リニューアル後アクセス(福島県)

- ・日平均約16,300件
 - ・地域記者ブログ日平均4,100件
- (12/22-1/18現在)
平成20年度日平均2,800件

新設内容

【青森県】

- ・青森県内の観光情報を網羅したデータベースの構築
- ・県や市町村、関係団体が情報を共有、直接情報登録、更新することで常に旬の情報を掲載
- ・既設コーナー(お薦めコース、イベント情報、ガイド情報、パンフレットダウンロード、投稿情報コーナー)の相互の関連付け

【福島県】

- ・着地型観光専用ページ
- ・投稿型フォトアルバム
- ・地域記者情報
- ・女将さんブログ特集ページ
- ・エリアからの情報検索機能、観光スポット情報のリニューアル



検索機能

関係団体による情報更新

投稿型ページ



地域記者ブログによる情報発信

検索機能

(3) 新たな観光旅行の分野の開拓

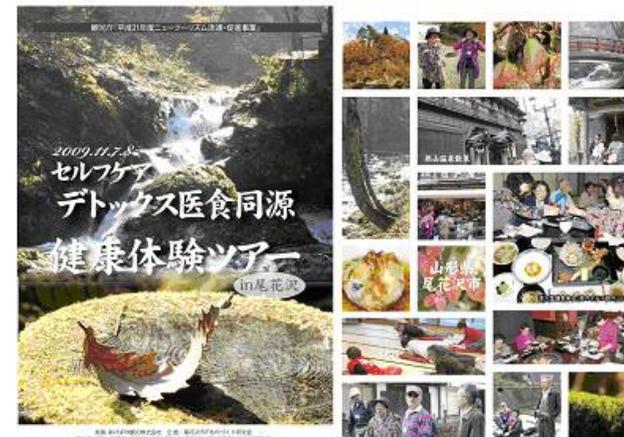
新たな観光旅行の分野の開拓

実施概要

実施ツアー：デトックス医食同源健康体験ツアー
 実施主体：尾花沢ITものづくり研究会、あけぼの観光
 実施期間：2009年11月7日～8日
 実施内容：薬草膳、漢方薬湯、トレーニング（1日体験）、スピンドルストレッチ 等

ポイント

- コンセプト
- 山間のホテルに宿泊しながら、無理のない運動と自身の日々の健康に対する考え方、毎日の食生活を見つめ直す
- 体験内容
- 地元医師、漢方薬膳指導師のもと、ウォーキングで楽しむ、温泉で体を癒すなど、晩秋の尾花沢の味覚と観賞を楽しむ、体と心をほぐす健康体験ツアー
- ターゲット
- ツアー体験後も気軽に足を運べる県内と宮城県内の30代～60代
 - 「健康オタク層」
- PR手法
- 地元の観光関係の広報媒体をタイムリーに活用
 - 地域の異業種交流から発祥した新しいヘルスツーリズムのツアー企画である事をアピール、口コミによる広報を展開



(4) 接遇の向上等

交通結節点での情報提供(デジタルサイネージ)

背景

- ・観光客への迅速・正確かつわかりやすい交通情報の提供の必要性
- ・限られた空間における多くの交通や観光情報の提供可能性の検討



印刷や加工の手間がかからず、緊急の修正にもオンラインで対応できる
「駅情報ボード」の実証実験

実施概要

実施機関：2009年7月17日～2010年6月末

実験対象：ツールビジョン（JR 東日本の商品情報や人気車両の映像等）

駅情報ボード（時刻表、駅構内図、路線図・運賃表、駅周辺地図）

その他パンフレットラック、サインボード

情報スペース「i-ステーション仙台」の開設

内容

- 駅情報ボード
 - ・タッチパネル式
 - ・携帯URL誘導表示（転送可能）
 - ・仙台駅構内図、仙台駅発時刻表、仙台駅周辺路線図及び運賃、駅周辺案内地図
- ユニバーサルデザイン
毎日時刻を更新、急な時刻変更にも対応可能



(出典) 株式会社ビズライト・テクノロジー ホームページ

(5) その他(観光旅行の安全、観光統計)

観光統計の活用(1)

平成21年12月「観光入込客統計に関する共通基準」「同調査要領」の策定

観光入込客統計から得られるもの



共通基準導入のメリット・利活用

全国共通の基準に基づく統計調査のメリット

統計整備

調査の信頼性を確保した、比較可能な統計
観光の規模(経済規模)、観光の構造(経済構造)が分かる。

比較検討

都道府県、市町村間での入込客数・消費額 産業連関分析が可能に
同様の観光地におけるポジショニング(位置付け)が明確になる。

利活用

施策評価・成果説明の明確化。 目標設定
地域の経済効果の算出・同分類の観光地点間・四半期変動や経年変化等。

説明責任

施策に要するコストと効果が明確に(透明性の向上) 効率的な予算配分が可能となる。
地域住民、議会、地元事業者等に対する説得力ある説明が可能に。

情報提供

関係主体(市町村、観光協会、民間、マスコミ、学会、学生、調査機関等)への情報提供ができる。
より詳細な調査・分析、市場調査が実施可能 観光振興の高度化

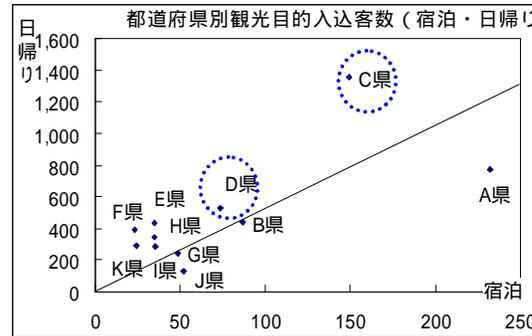


比較可能な観光統計を活用したPDCAサイクルで、効率的で継続的な業務改善が可能に

(5) その他(観光旅行の安全、観光統計)

観光統計の活用(2)

観光入込客統計の分析イメージ 観光入込客数 < 試験調査結果 >



D県は、よく似た特性(観光地点等分類・数、立地等)のC県まで、観光入込客数を伸ばせるのでは。C県は日帰り主体の観光客に宿泊してもらうことが重要では。

H22年度の観光統計に関する取組

H22 拡充

宿泊旅行統計調査(四半期)

旅行・観光消費動向調査(四半期)

H22 新規

訪日外国人旅行動向調査(四半期)

観光産業構造基本調査
<観光センサス>

沖縄県での活用事例

業界説明会: 実施した結果について、観光業界への説明会を開催し、情報提供に努めるとともに、今後の統計調査について業界との意見交換を実施

H P 掲 載: 沖縄県観光企画課のHPに各種統計調査の結果を公開

その他

- ・観光学習教材への活用 *教材及びワークブック作成
- ・小学校の授業で活用

活用事例: 冊子作成

観光要覧(年度版)

- ・当該年度の観光客数、観光収入、重点施策や制度の説明など
- ・毎年作成し業界や自治体等へ配布

採点! 沖縄観光(業界向け)

- ・分野ごとの満足度を点数化し、図表を用いて分かりやすく紹介
- ・旅行前の期待度と旅行後の満足度のギャップを図示

沖縄観光の潜在マーケット(業界向け)

- ・沖縄を訪問したことのない人を対象とした調査(インターネット)
- ・来訪経験者と未来訪者の沖縄観光に対するイメージ比較